

丘の上の学舎

～若い芽・強い木・愛の花～



令和8年6月30日

「負（お）うた子に教えられて浅瀬を渡る」

副校長 山田政博

今年に入り、私の大好きなスポーツの大会がたくさん行われています。世界大会で言えば、2月には「ミラノ・コルティナ冬季オリンピック」、3月には「ワールドベースボール・クラシック（野球）」がありました。現在6・7月には「FIFAワールドカップ杯（サッカー）」、10月には「アジア競技大会（名古屋）」があります。日本人の活躍がうれしく思います。そして、いろいろな競技で感動する場面が生まれます。また、日本のスポーツでは、長崎Vファーレン（サッカー）がJ1リーグに昇格し素晴らしい試合を行っています。さらには、長崎ヴェルカ（バスケット）はB1リーグの西地区で優勝し、チャンピオンシップでは、沖縄ゴールデンキングスを見事破り、日本のチャンピオンに輝きました。長崎県民としてはとてもうれしいニュースでした。スポーツは私を元気にしてくれます。

話は変わりますが、少し強引ですが、「チャンピオン」と言えば、リズムネタでブレイクした「チャンピオンズ」というお笑いコンビを知っていますか？そのうちの一人、「日本一おもしろい大崎」という諫早市出身の芸人がいます。少しずついろいろな番組にも出演しています。地元の番組「ひるじげドン」にも時々出演しています。25年ほど前、私は諫早市の小学校で2年間教員をしていたときがありました。大崎君はそのときの私の教え子になります。大崎君は、小学生の頃からお笑いのセンスがあり、人を楽しませてくれるクラスのムードメーカーでもありました。更にはソフトボールクラブにも所属し、キャプテンを務め、熱い志をもちチームをまとめていた子供でもありました。テレビで初めて見たときは、あの大崎君が・・・と驚きました。現在の位置に来るまでには、並々ならぬ努力、親の猛反対を押し切りお笑いのチャンピオンになりたいという強い信念があったと聞いています。この努力や信念は教員である私も見習わなければならないと感じ、改めて教えられたところでした。

ことわざに「おうた子に教えられて浅瀬を渡る」とありますが、このことわざを思い出して今回書かせていただきました。この大崎君については一例ですが、我々教員は子供たちに教える立場ではありませんが、子供たちから学ぶことも多々あります。その学びを大切にしていきたいと思っています。

「おうた子に教えられて浅瀬を渡る」とは、自分より未熟だと思っていた子供や年下の人から、思いがけず大事なことを教えられたり助けられたりすることがある、という例えです。



今月の輝き face - 小学部1年生 -

😊 輝き face は4月に入学した小学部1年生です。😊

図画工作の学習で、絵の具をたくさん触ってあじさいを作りました。

朝の会で日付や時間割発表をしています。絵カードを友達に見せながら伝えるのが上手になりました。

体育でエアトランポリンに乗りました。友達と一緒に寝転んで揺れや振動を感じ、とっても楽しいです。

スクーリングで、入学式以来の再会にみんな大喜び。おそろいの衣装を着て記念撮影！

訪問教育で学習をしています。音楽で、オーシャンドラムを鳴らしました。波の音がしておもしろかったです。

いつも仲良しな3人は、休み時間になると1か所にギュッと集まり、触れ合ったり笑い合ったりしています。

PTA 研修会（給食試食会）

6月19日（金）、PTA ふれあい部主催の研修会として、給食試食会を開催しました。当日は、17名の保護者さんが参加されました。前半は、本校の近藤栄養教諭による講話がありました。本校の給食の概要、食形態と食物アレルギー対応、衛生管理等について、また事前に保護者さんから集約していた質問への回答などを話していただきました。子供たちに人気のメニューは揚げパン、ちゃんぽん、カレーとのこと。「毎日手軽に鉄分をとるには何をどれくらい食べるといいか」への質問に対して具体的な食材を示してもらい、大変参考になりました。実際に形態食も試食して、保護者の皆さんの視点でいろいろな発見があったようです。後半は給食を食べながら、自分たち時代の給食の思い出話をして、保護者さん同志の親睦も深めることができました。



令和7年度第1回学校評議員会報告

今年度の学校評議員の方々です。

- 池田 孝之 様（元諫早特別支援学校校長）
- 松浦 恵子 様（県立こども医療福祉センター）
- 井村 弘子 様（長崎県医療的ケア児支援センター）
- 矢野 武志 様（社会福祉法人飛翔会ワーキングヒルズ）

6月16日（火）、令和8年度第1回学校評議員会を開催しました。今年度から、以前本校の校長を務められた池田様が学校評議員になられました。

それぞれのお立場から様々な視点で本校の教育についてご助言をいただきました。ありがとうございました。いただいた助言等を一部ご紹介します。

□諫早特別支援学校の取組を聞いて「不易と流行」を感じました。不易の視点では、「個別最適な学び」です。自立活動やICT機器の活用がそれにあたると思います。不易を大事にしていき、自己選択・自己決定の場を守っていただきたいです。流行の視点では、医療的ケア看護職員が増えて、通学支援も始まっている点です。

■今後、人口呼吸器を装着している子供の入学が予想されます。医療的ケアの内容について、ハードルが上がりますので医療との連携が大事になると思います。是非、主治医との連携を深めていただければと思います。

□ICT機器（AI）の活用について、最近はボイスレコーダーで文字おこしができます。上手に活用していけば先生方の働き方も変わると思います。生徒も先生も楽しい学校づくりをしてもらえればと思います。

■「風通しの良い職場」環境づくりをすることは、大切だと思います。

□8月21日（金）に大村市コミセン大会議室で「大村市障がい者未来デザイン相談会～企業と障害福祉サービスの紹介～」があります。大村市のホームページに掲載しています。高等部だけでなく、小中学部の子供たちにも見ていただきたいです。

■訪問教育卒業生の進路についても、自分ももっと考えていきたいです。